

『シモキタ』 駅周辺整備計画から 『まちづくり』を考える ～「道路」と「防災」～



まず、この下北沢駅周辺地区地区計画がどのようなものか、世田谷区生活拠点整備担当部にうかがってみました。

世田谷に住む人だけでなく、若者やアーティストにも人気のまち「シモキタ」。小田急線の地下化にともない、下北沢のまちの再開発問題が3年ほど前から大きな注目を集めてきました。「災害に強いまち」、いや「路地の文化を大切に」とまだまだ賛否がとびかうなか、10月18日に、東京都より「都市計画道路補助54号線第一期工事区間と区画街路10号線」の認可がありました。また世田谷区都市計画審議会での「下北沢駅周辺地区地区計画(案)」の審議で、この案が承認されました。事実上のゴーサインです。

住民にとってはたいへん重要な問題ですが、数字や図面ではわかりにくい面もあります。今、シモキタが私たちに問いかけている課題はたくさんありますが、ここでは「防災」まちづくりの視点から考えてみたいと思います。

なぜ、下北沢駅周辺整備なのか

「下北沢は、区の都市整備方針において二子玉川、三軒茶屋と並ぶ広域生活拠点として位置づけ、都市的にぎわいを楽しみむ界隈を育成する地区」としています。昭和59年に商店会、町会の代表で構成される下北沢まちづくり懇談会が発足し、平成12年には下北沢グランドデザイン構想図(地区住民による街づくり構想)が区に提言されました。区は街づくりの経過

を受けて、地区計画の策定を進めていきます。54号線や駅前広場の区画街路10号線など、すでに決定している都市計画道路は地区計画の前提になっていきます。小田急線の地下化を契機に、道路計画だけでなく、建物のルール、まちのルールづくりが求められています。



再開発問題では、下北沢の北側を大きく二分する、一部区間が幅26メートル道路(環七とほぼ同じ幅)の補助54号線の存在が最もクローズアップされていますが、区では下北沢は防災、火事の発生、交通の利便性、バリアフリーなど、まちづくりの面でも課題を抱えているので、「広域的な視点で取り組む道路整備と地域の課題解決のための取り組みを行政は併せて行う必要がある」と説明しています。

道路は防災のため?

道路をつくる時に必ず言われるの



避難場所と跡地が全部つながり、避難路にもなるのです。防災計画はできるだけ迅速にすべきですから、8年後には完成する小田急跡地を中心に考えて欲しい。」

さまざまな方法の「防災」

「防災」の観点から「道路」をどう考えたいのか。消防庁消防研究所センターの室崎益輝所長にも話をうかがってみました。「26メートル道路を、区はおそらく遮断帯をイメージしているのでしょうか。果たして道路がないと止められないのか、ということも必ずしも自動車道路である必要はない。緑道や水路は昔から防災にとって役だってきました。安全性を重視すると、100メートル道路なんていう議論になってしまふのです。でも幅が問題ではなく、路地ははたして危険か、ということもそうでもない。1メートルしかない京都の路地がどうして安全かというと、土壁が道路

「セイブ・ザ・下北沢」ホームページは
<http://www.stsk.net/>
お問い合わせは info@stsk.net



くのか。もともとあった計画だから、ということでしょう。60年間建築制限をかけてきたからといって、

が「防災」です。「火事の時に消防車が通れない」「地震が起こったら倒壊建物が狭い道をふさいでしまう」と言われれば、そうか、やっぱり必要なんだらうな、と思ってしまう。「シモキタ問題を『防災』のための道路をつくるのか、若者文化を守るのか」とマスコミは単純化するけれど、僕たちは反対運動をやってきた覚えはなく、よりよいまちづくりの提案をしてきただけなんですけれどね」と、困惑するのは建築家で「セイブ・ザ・下北沢」の代表、金子賢三さん。「今、道路をつくるための理由づけをしてほしいんです。防災、防災と言うけれど、防災は数値的に測りやうがない。本来道路は車を通すために作るのだから、交通量調査をして便益をどれほどあげられるかを測って決めるべきなんですよね。では、なぜつく

仮に中止しても、売りたいと思っいる人の土地は行政が積極的に買い取り、公共利用にしたっていい。計画を考え直すという「システム」がないので、なかなか平和的な解決ができないのだけれど、まず道路ありき、という考えを直してほしいなあ。担当者もシステムの中で仕方なく動いている、日本という国自体の根本的な問題かもしれない。そもそも道路事業の完成までのスパンはとも長いものに必要なのだとしたら、いつ起きるかかわからない災害に備えるには、あまりにも気の遠い話ではないでしょうか。」と疑問を投げかけています。

下北沢の防災をどう考えるのか、金子さんたちの提案はこうです。「消火活動というなら地域を背骨のように通っている小田急の跡地を利用した方が有効で、現在消火活動がやりにくい地域がそれによってカバーできる。ポンプ車をおける場所からホースを10本つなげば200メートルになりますから。それに羽根木公園、東大駒場、代々木公園といった広域

「消防研究センター」ホームページは
http://www.fri.go.jp/cgi-bin/hp/index.cgi?ac1=JLL1&ac2=&ac3=&Page=hpd_view

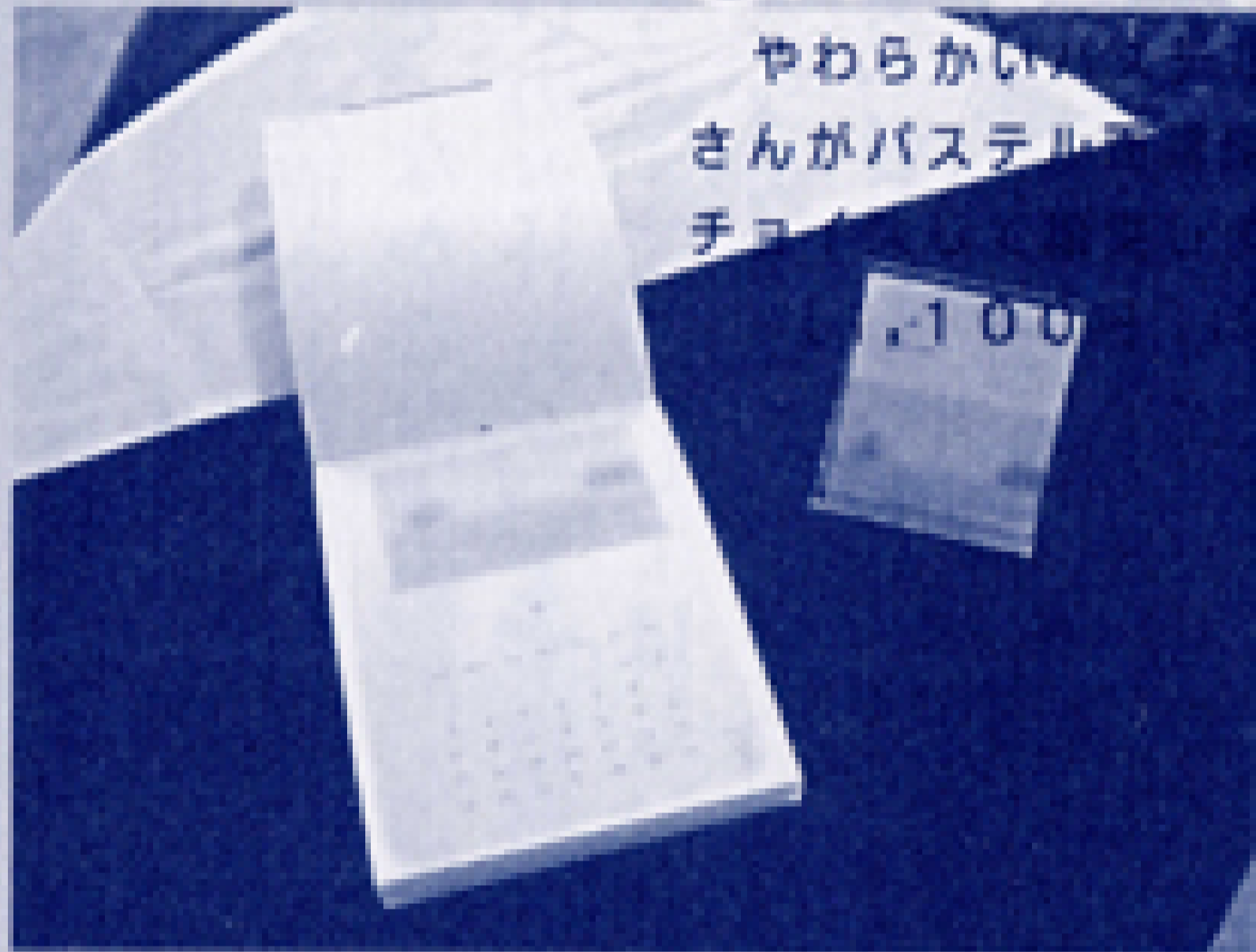
に面していて、窓を道路側に開けない、など工夫がされている。軒下に天水桶や防災グッズが配置されていたりして。建物の高さをそろえる、というのも景観が優れるだけでなく、防火にも役立ちます。」

つまり選択の幅はいろいろある、ということなのです。室崎さんは言います。「まちづくりというのはコミニケーションの場。墨田区の雨水だめなども、市民のアイデアでした。市民の声の中に天の声がある。まちづくりの際には、なんの利害もない人の意見をきき、そういうエネルギーを大切にしたいですね。提言することをお勧めします。」

行政と市民のパートナーシップ、それが最も活かされる場が「まちづくり」です。事業認可は下りましたが、今からでも遅くない。「どういうまちにしたいのか」、民、専門家を交えたラウンドテーブルでの議論が行われてほしいと切に願います。だれもが好きな「下北沢」が愛すべき「シモキタ」でなくなってしまうために。

(星野弥生)

●ハーモニーのカレンダー●



やさしい絵の絵巻のカレンダーです。メンバーさんがパステルなどで描きためた作品の中からチョイスしました。やさしい絵が特長です。
 [1,000円 (A3サイズ・12枚綴り)
 製作/ハーモニー]



●JVCカレンダー●

毎年美しい写真が好評のJVCのカレンダー。今回のタイトルは『アジア育ち』。写真家の菅 洋志(すが・ひろし)さんの撮影による、アジア各国の人々や美しい風景の写真で構成されています。おおよそ1,000円をJVCの活動を通じて、アジア・中東・アフリカの人々の生活改善に使用させていただきます。
 [1,500円 (A3サイズ・12枚綴り)
 販売元/JVC(日本国際ボランティアセンター)]



●WNSのポストカード●



このポストカードは「第1回Tシャツアート展/Stop DVチャリティ」の出展作家のご協力により制作されたもので、もともとTシャツにプリントされていたイラストをポストカードにしたものです。5枚組。
 [1,000円 販売元/おびつ+ぽん(WS)]
 ※WSはDV被害者当事者とボランティアが中心になって活動している民間の支援団体です。